

## 第2章 鮭川村及び庭月観音の自然的特質と災害履歴

### 第1節 鮭川村の自然的条件

鮭川村は、奥羽山脈の支脈と出羽丘陵によって囲まれているため、冬は積雪寒冷地帯に属し、春から夏にかけては多雨多湿になる。積雪期は12月中旬から3月中旬までに及ぶ。

降雨量が日雨量概ね 60 mm以上になる場合は水害が発生しており、台風の場合は、県の東側を北上する経路をとる場合に水害が発生している。

一方、台風が県の西側の日本海を北上する経路をとる場合には、風による被害が大きくなり、南東～南南西の風向きで15m/s～20m/s前後の風が吹く。



### 第2節 鮭川村の災害の危険性

自然災害の要因としては、地盤災害や地震災害の要因となる「村の地盤の特徴」、風水害や雪害の要因となる「気象」があげられる。

#### 第1 自然的災害要因

##### 1 村の地盤の特徴と災害の危険性

	災害の危険性
山間部	・村の西部の山間部は、粘土化しやすい酸性の凝灰岩や砂岩等を含む新第三紀層の地質が分布しており、これらを母岩とする <u>地すべりの危険性</u> がある。

##### 2 気象

###### (1) 季節ごとの災害の危険性

季節	災害の危険性
春	・融雪に伴う浸水、土砂災害
夏	・ <u>停滞前線や雷雨（局地的大雨）に伴う浸水被害及び土砂災害</u> ・ <u>台風による被害（雨中心）</u> ・「やませ」による冷害
秋	・ <u>台風に伴う強風・浸水被害及び土砂災害</u>
冬	・豪雪に伴う積雪による被害、雪崩及び排雪に伴う浸水被害

(2) 被害状況に悪影響を及ぼす気象現象

地震や火災等の災害が発生した際に、被害状況に悪影響を及ぼす気象現象としては、大雨が該当する。

気象現象	被害拡大の危険性
局地的大雨	・地震で緩んだ地盤に、 <u>崖崩れや地すべり等</u> を引き起こしやすくなる。

第3節 鮭川村の災害履歴

村は水害の常襲地となっている。過去に村に大きな被害をもたらした水害としては、昭和36年9月の第二室戸台風、昭和44年8月の豪雨、昭和49年8月、昭和50年8月の大洪水、平成16年7月、平成30年8月の大雨、令和6年梅雨前線豪雨災害があげられる。

第1 村に関する水害災害年表 江戸時代

災害発生年 (西 暦)	災害の概要
寛永14年(1637)	8月洪水 川通り家屋流出す
万治2年(1659)	7月3日洪水 長沢村で10人流死
天和2年(1682)	4月3日新庄で大雨洪水、流失44戸
宝永年中(1704)	大雨洪水、流失3戸、舟形まで3日間不通
享保8年(1723)	5月29日大雨洪水、流家25戸、流死4人
宝暦7年(1757)	5月25日洪水
安永6年(1777)	7月11～13日まで3回水があがる。横堤右側破堤、大夫堰がおちる。内川破堤。
天明元年(1781)	5月27日田植え中で苗がなくなる。前代未聞
文化11年(1814)	6月6日洪水 平岡村で田畑の流失が多い
<u>文政11年(1828)</u>	<u>7月10日より雨天が続き、12日夜4つより大洪水となり、庭月板の間の上1寸程上がる。下河原大破</u>
天保4年(1833)	6月17日横堤溢流、内川まで水浸し
天保4年(1833)	6月26日大雨で4つ時より大洪水 鮭川の堤防が大楚根のところ決壊、17日の破堤のところ以外でも、下川原の土手1か所大破、下悪土、岩木前で氾濫
<u>天保10年(1839)</u>	<u>6月28日朝より大雨、大洪水になり、石名坂、土手、大夫堰が相破、横土堤溢流、夜6つ時半より庭月の住居浸水、4つ時半時板敷の上8～9寸水が上る。家の中に水があるのは半時位、田畑は一面水押、泉田村、指首鍋村で被害甚大</u>

第2 村に関する水害災害年表 明治時代～現在まで

災害発生年 (西 暦)	災害の概要
明治元年(1856)	6月14日洪水
明治2年(1857)	1月29日大雨、ざえ流れ京塚あたりまで洪水
明治24年(1879)	7月大洪水
明治27年(1894)	8月25日朝7時40分大洪水、庭月床の上1尺2~3寸、24日夜より霜雨、25日朝 横堤破 堤 水一面に押し来られる。1833の洪水より5~6寸高い、大沢、及位地区で被害甚大
大正4年(1914)	8月18日大洪水
大正7年(1918)	8月20日大洪水 1715円の損害見積
大正15年(1926)	7月8日3回の洪水 1・2回は17尺5寸の出水位 東西5丁南北20丁の氾濫面積。3回は鮭川・曲川で出水 損害見積164,217円
昭和9年(1934)	3回の洪水 鮭川・曲川・大沢全体で376haの浸水(大半が庭月)
昭和18年(1943)	8月12~14日鮭川、赤川流域に300耗以上の豪雨あり
昭和19年(1944)	7月20日大洪水
昭和21年(1946)	洪水 損害241,200円の損害
昭和22年(1947)	7月22日大洪水 損害18,617,000円の損害
昭和30年(1955)	6月25日護岸25ヶ所、道路橋りょう24ヶ所、農地202町歩が流出・埋没
昭和33年(1958)	7月28日鮭川橋付近で最高水位4.3m、被害総額5500万円
昭和36年(1961) 第二室戸台風	9月16日18時から夜半にかけて県内は暴風圏内に入り、酒田沖90kmの海上を北上した(台風の規模A級)。このため雨量は少なかったが県内各地は風害があり、特に戸沢村、鮭川村の被害が甚大であった。住宅全壊26戸、半壊41戸、一部破損314戸に達し、鮭川中学校の屋内運動場98坪完全倒壊し、 <u>災害救助法が適用</u>
昭和44年(1969)	8月6~8日の豪雨による被害 道路決壊49ヶ所、橋りょう流出13ヶ所、農村施設42ヶ所、被害総額1億9千万円
昭和46年(1971)	7月16日人身被害1人、住居の破損や浸水世帯114戸、道路の欠所・橋りょう流失56ヶ所、農地流失・埋没92ヶ所101ha、農業施設の破損23ヶ所、被害総額2億5902万5千円、水稻等減収額1億2180万円
昭和47年(1972)	7月9日水田の冠水・流失・埋没328ha、被害総額9543万9千円
昭和49年(1974)	8月1日大洪水 住宅半壊3戸、床上浸水37戸、床下浸水20戸、非住宅27戸、水田1015ha、その他、被害総額4億6658万円

昭和 50 年(1975)	8 月 6 日大洪水 鮭川筋の高土井、西村、観音寺、月立、川口が大洪水となった。住宅床上浸水 51 戸、床下浸水 56 戸、非住宅浸水 48 棟、水田流失・埋没 101ha、水田冠水 753ha、畑流失・埋没 1ha、畑冠水 49ha、道路不通 6 ヶ所、橋りょう不通 2 ヶ所、崖くずれ 1 ヶ所、羅災世帯 107 戸、羅災者数 536 人、被害総額は農林水産業施設 2 億 2250 万円、公共土木施設 1213 万円、その他公共施設 20 万円、農産物被害 5 億 7630 万円、畜産被害 50 万円、山林の被害 2652 万円、商工被害 150 万円、その他 50 万円、被害総額 8 億 9775 万円
昭和 55 年(1980)	7 月 14・15 日村内いたるところ氾濫し、鮭川の水位は約 4m に増水、高坂ダムの放水により 4.8m に達した。この氾濫により道路地すべり・決壊・水田冠水 216ha、水田流失・埋没 13.5ha、住宅床上浸水 1 戸、床下浸水 11 戸、決壊か所 108 ヶ所、地すべり 11 ヶ所、土砂くずれ 7 ヶ所などの被害総額 4 億円にのぼった
昭和 58 年(1983)	集中豪雨による被害(被害総額 3 億 8070 万円)。
平成元年(1989)	集中豪雨による被害(被害総額 1 億 5000 万円)。
平成 16 年(2004)	7 月 17~21 日 梅雨前線が停滞したことによる大雨による被害。 人的被害 1 人(金山町)、住家被害、半壊 2 戸、一部損壊 1 戸、床上浸水 23 戸(うち鮭川村 1 戸)、床下浸水 249 戸(うち鮭川村 8 戸)。 <u>鮭川村では、河川増水により 5 世帯 24 人に避難勧告を発令、また土砂崩れや河川増水により 9 世帯 46 人が自主避難</u>
平成 17 年(2005)	8 月 21 日 日本海の停滞前線に向って湿った暖気が入り、また、太平洋高気圧の張り出しで気温が上昇し、大気の状態が不安定になった。このため県内は、置賜を中心に雷雨となり局地的に直径最大 3センチの雹が降った。 人的被害なし、住家被害 停電 4,823 戸(うち鮭川村 中渡、羽根沢 351 戸)
平成 18 年(2006)	7 月 28 日 28 日昼過ぎから、活発化した梅雨前線が東北南部へ北上し、更に上空に寒気が入ったため、庄内北部や最上地域中心に発達した雨雲がかかり、局地的に非常に激しい雨となった。真室川町差首鍋では激しい雨が降った。 人的被害なし、住家等被害 一部損壊 1 戸、 <u>床下浸水 10 戸(うち鮭川村 4 戸)</u> 、非住家被害 9 戸(うち鮭川村 6 戸)
平成 20 年(2008)	8 月 14・15 日 熱帯低気圧と前線の影響により、県庄内地方から最上地方の比較的狭い範囲で雨雲が発達し停滞したため、局地的に非常に激しい雨が断続的に降り大雨となった。これにより、一般県道神田川口線、鮭川村向居~戸沢村上松坂間に法面崩落(延長 L=40m 崩土幅 4~5m、H=0.8m)の道路被害発生
平成 21 年(2009)	7 月 18 日 大雨 人的被害なし、住家被害 <u>床下浸水 1 戸(鮭川村)</u> 、非住家被害 4 戸、道

	路被害 6 箇所、農業用施設・林道施設被害 53.7 百万円
平成 22 年(2010)	8 月 11 日 大雨による被害人的被害なし、住家被害 床上浸水 3 戸、床下浸水 19 戸、非住家被害 10 戸、車両閉じ込め 1 件、道路被害 5 箇所、落雷による停電 3,090 戸(鮭川村にも被害有り)
平成 23 年(2011)	8 月 17 日からの大雨による被害人的被害なし、住家被害 床上浸水 13 戸、床下浸水 36 戸、非住家被害 全壊 1 戸、浸水 52 戸、道路被害 18 箇所、土砂災害 14 箇所鮭川村では、農作物被害が発生したほか、鮭川と真室川の合流点の中州(鮭川村庭月)にキャンプに来ていた 3 名(大人 1 名、子ども 2 名)が増水のため取り残され、8 月 18 日 7 時 11 分救助、真室川町立病院搬送された。
平成 27 年(2015)	9 月 9 日から 9 月 11 日の大雨による被害 最上地域が主な被災地域(鮭川村における被害なし)人的被害 負傷者 1 名、住家被害 全壊・流失 1 戸 床上浸水 13 戸、床下浸水 19 戸、非住家被害なし 農林被害 254 百万円、土木被害 1,129 百万円
平成 30 年(2018)	8 月 5 日から 8 月 6 日の大雨による被害 最上地域が主な被災地域 人的被害 負傷者 1 名、住家被害 半壊・一部損壊 8 戸 床上浸水 24 戸、床下浸水 486 戸、 非住家被害なし 農林被害 4,868 百万円、土木被害 6,443 百万円鮭川村では、人的被害なし、住家被害 床上浸水 3 戸、床下浸水 33 戸、非住家被害 浸水 17 戸 農村交流センター他 5 公共施設に 209 名が避難
平成 30 年(2018)	8 月 30 日から 8 月 31 日の大雨による被害 鮭川村に被害として、人的被害なし、住家被害 床上浸水 2 戸、床下浸水 58 戸、非住家被害 浸水 35 戸 農村交流センター他 5 公共施設に 206 名が避難
令和 6 年(2024)	7 月 24 日から 7 月 26 日にかけての大雨による被害。災害救助法が適用されるとともに、局地激甚災害に指定された。 7 月 25 日時点での避難指示は、22 地区(対象世帯数 615 世帯 1,677 人)まで及んだ。 7 月 25 日時点で、農村交流センター・鮭川中学校の指定避難所を開設し、避難者数は延 264 人となった。地区公民館も 8 カ所を避難所として開設し、延 78 人が避難した。 孤立集落は最大 14 地区 178 世帯 545 人となった。 死傷者は 0 人。住宅被害は全壊 4、中規模半壊 4、半壊 8、準半壊(床上浸水) 3、一部損壊(床下浸水) 55、計 74 箇所である。 その他にも水道・村道施設の損壊、農業施設の被害も多数であり、村政史上最大の豪雨災害被害となった。

出典：県地域防災計画、鮭川村史（集落編）、鮭川村史（通史編）、県災害年報、  
こちら防災やまがた！、「令和6年梅雨前線豪雨等による災害」の状況